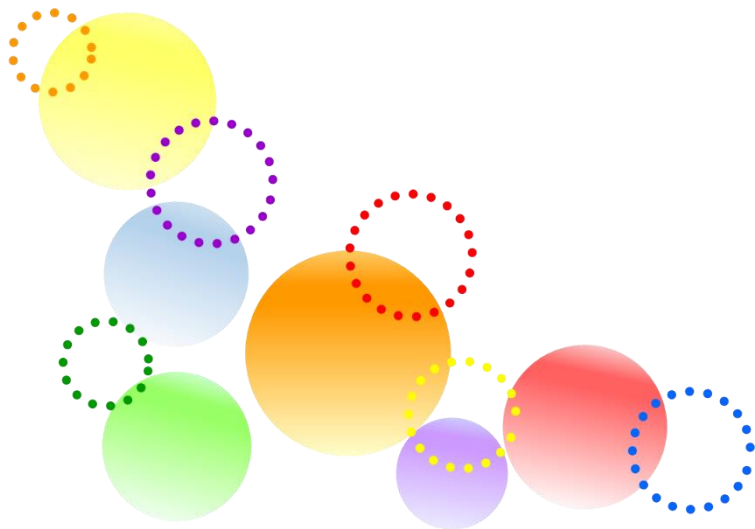


「多様な性を生きる人のための 防災ガイドブック」 に関する取り組み



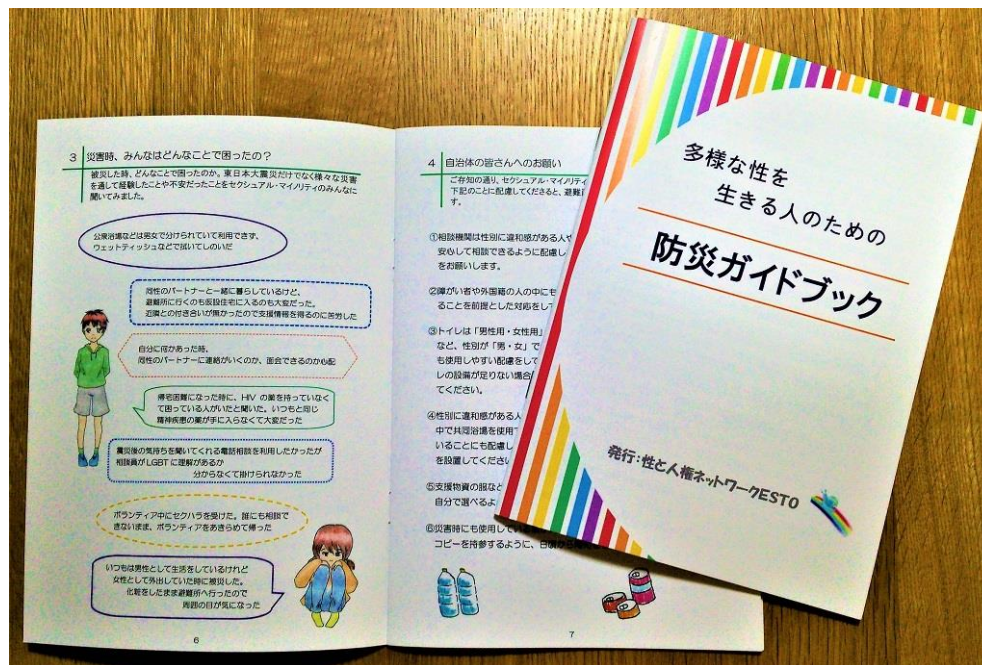
性と人権ネットワークESTOスタッフ

内田有美

「多様な性を生きる人のための防災ガイドブック」発行

2017年10月7日発行

クラウドファンディングでご支援をいただき発行
ガイドブック1,500冊と緊急連絡先カード2,000枚を作成

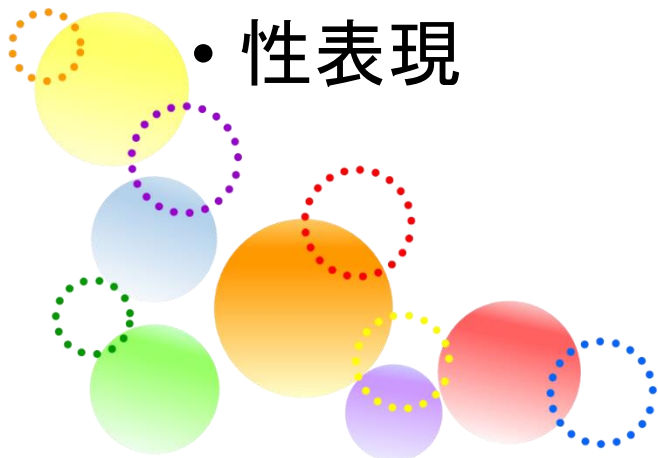


東日本大震災後から発行までの取り組み

日付	テーマ
2011年4月16日	交流会 震災とセクシュアルマイノリティーそれぞれの課題ー
2011年10月22日	交流会 被災地のセクシュアルマイノリティから伝えたいことー自分と大切な人達を守るためにー
2012年4月21日	交流会 Self-Esteem UP!ー自分を大切にしていますか？ー
2013年4月20日	交流会 第1回セクシュアルマイノリティと災害への備え
2013年10月19日	交流会 第2回セクシュアルマイノリティと災害への備えー日常と災害 トイレとオフロをどうしよう？ー
2014年5月10日	交流会 「震災とセクシュアリティ」から見えてきたもの
2014年11月23日	シンポジウム つながりをイメージする 災害とセクシュアリティ・ジェンダー
2015年4月25日	交流会 多様な性に配慮ある防災マニュアルの検討会
2015年10月24日	交流会 災害時に役立つレシピを使った料理教室と秋田県集会のビデオ鑑賞
2015年11月22日	シンポジウム 3.11とセクシュアリティーいのち・人権・こころ 守れたもの 守れなかったものー
2016年4月23日	交流会 多様な性に配慮ある防災マニュアルの検討会（継続中）
2016年10月22日	交流会 多様な性に配慮ある防災マニュアルの検討会（継続中）

実際に災害時に生じていた困難


- 性別で分けられている設備の使用や支援物資の受取りが困難
- 薬剤の不足に起因する体調不良
- 同性パートナーと暮らしている場合の避難所利用や仮設住宅入居
- 相談電話の利用
- セクハラ
- 性表現



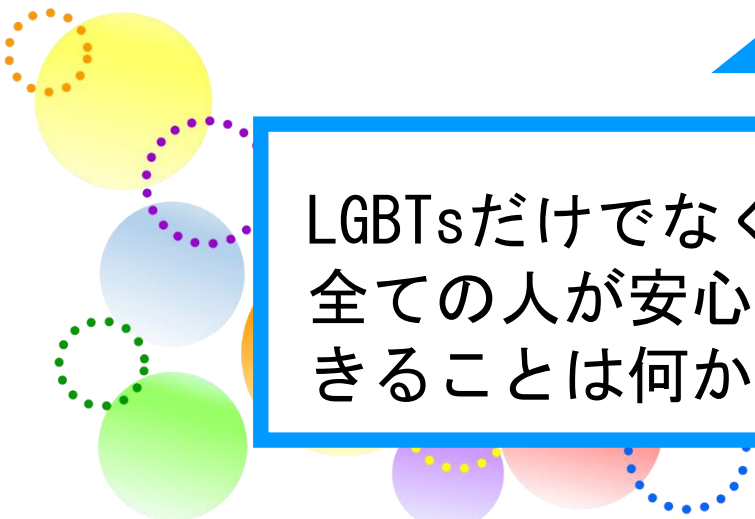
※東日本大震災以外の災害も含む

ガイドブック発行の経緯

- 災害時にセクシュアリティに由来する困難があった
- セクシュアリティに関する支援を求めることが「わがまま」とされてしまうこともあった
- 支援を受けられないことで「命に関わることもある」という認識の不足
- 自治体などから「どうしたら良いか分からない」という声があった



LGBTsだけでなく多くの人に必要な事
全ての人が安心して避難できるために
できることは何か

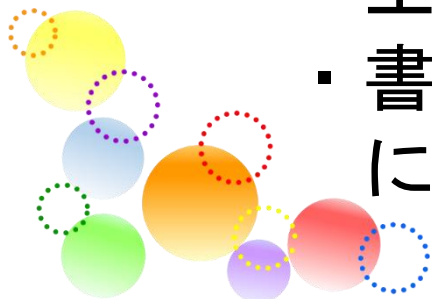


ガイドブックの対象

- LGBTs
- 自治体
- 一般市民



- 年齢やセクシュアリティを問わず使用でき、SOGIの視点から自分も多様な性の一員と思えるもの
- LGBTsについて理解してもらいやすいよう工夫
- 書き込み欄などを設け、ライフスタイルに合わせた活用を工夫



ガイドブックの内容

LGBTs

- 避難所について
- 日頃の備え
- 避難所に行かないで生活する方法
- 日常でのつながり
- 役立った工夫
- 相談先
- コラム

自治体

- 用語解説
- 災害時に困ったこと
- 自治体へのお願い
- 避難所について
- コラム

市民

- 用語解説
- 災害時に困ったこと
- 自治体へのお願い
- 日頃の備え
- 避難所に行かないで生活する方法
- 相談先
- コラム

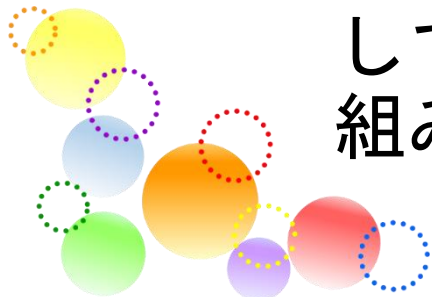
相互に利用できる内容

配布時のつながり

- 各地のLGBTs支援団体や活動をしている方が地元の防災関係者などに配布
- 男女共同参画センターでの配布
- 地域でLGBTsに関心を持つ方から地域に課題として発信
- 県庁の担当課から各市町村へ配布



地域内の「顔の見える人」から配布してもらおうことで、より具体的な取組みにつながるのではないか



ガイドブック発行の成果

- 具体的な事例と対応案を提示できたことで、さまざまな場面で共有・活用できる
- 「性の多様性」を「自分ごと」として捉えるきっかけにできる
- 自治体などで防災計画を作成する際にLGBTsを含めた市民の安全を守るために具体的な部分に言及することができる

